思いやりの懸け橋 手紙がつなぐ

台風被害の比↓吉備小にお礼

岡山市立吉備小（北区庭瀬）の子どもたちに14日、フィリピンから手紙が届いた。昨年11月に台風30号が直撃した同国南部のレイテ島タクロバンの子どもたちへ送った応援の手紙のお礼だ。災害をきっかけとして、約2700キロ離れた両国の子どもたちが、思いやりの懸け橋をつないだ。

手紙を書いたのは吉備小の現6年生約35人。県内のフィリピン出身者らでつくる「岡山倉敷フィリピノサークル」のメンバーがタクロバンの小学校を訪れると知り、日本語で1人ずつ「ぼくらはみなさんを応えんしています。がんばってはげまし合い生きてください」などとつづり、メンバーに託した。

タクロバンからの手紙をとじたアルバムを受け取る児童＝北区庭瀬の吉備小で

サークルは先月21～26日にタクロバンにあるアニボン小、パロバラス小を訪問。歯ブラシやサンダルなどの支援品とともに、預かった手紙を渡した。翌日もう一度学校を訪れると、子どもたちがお礼の手紙を用意していたという。

返信を預かったサークルの古城ディジーさん(58)らが14日に吉備小を訪れ、児童に手渡した。手紙には絵やシールが添えられ、英語やタガログ語で「応援してくれてありがとう」「愛しています」などと感謝の言葉も。当時を振り返り、「風や雨が強くなってきたとき、心臓がどきどきした。屋根や木が飛んでいくのが見えた。またあんな台風が来るのが怖いので、祈っています」とつづったものもあった。

手紙を受け取った末友晴基君（6年）は「多くの方が亡くなって悲しいと思うけれど、少しでも力になりたい。温かい絵のついた手紙をもらえてうれしい」と真剣な表情で話した。

古城さんによると、訪問した小学校は台風で校舎が壊れ、パロバラス小では仮設校舎の2教室に約250人が集まって授業していた。韓国軍や中国の赤十字が修繕に協力しているという。古城さんは「タクロバンの子どもたちは手紙をすごく喜んでいた。吉備小の子にも、今の心を忘れずに大きくなってほしい」と話していた。

【五十嵐朋子】